

令和 6 年 1 月 16 日

宮城県精神保健推進室

## 「令和6年能登半島地震」の発生に伴う 災害派遣精神医療チーム(DPAT)の派遣について

### 1 経緯

- 令和6年1月1日午後4時10分頃、石川県能登地方を震源とする地震発生。同日午後5時にDPAT事務局からDPATの待機について検討依頼あり、午後9時27分に解除。
- 令和6年1月2日午後5時15分に公立能登総合病院内能登医療圏活動拠点本部で先遣隊2隊がDPAT活動拠点本部を立ち上げ、活動開始。1月3日に中部ブロックにDPAT派遣要請。1月4日に新潟県、栃木県、群馬県に派遣要請。
- 令和6年1月6日(土)午後1時に、中部ブロック及び東北ブロック等の都道府県あてに災害対策基本法第74条に基づく、石川県へのDPAT派遣要請\*あり

※ DPAT事務局から派遣要請メールによる要請。

- 令和6年1月10日(水)午前10時に、今後の都道府県DPAT(後続隊)派遣について、DPAT事務局に確認したところ、「1月9日(火)から奥能登地域に入れた段階であり、先遣隊のみの派遣(先遣隊との混合チームは可)を要請している。今後、都道府県DPAT(後続隊)の派遣要請の可能性は未定」との回答を得た。

### 2 本県の対応

#### (1) 派遣に係る検討経過

- メール要請後、ただちに精神保健推進室内に精神保健推進室、精神保健福祉センター及び統括者からなる宮城DPAT調整本部を立ち上げ
- 派遣者の調整、現地への移動手段、宿泊場所、持参物資等の手配に係る調整を経て、1月6日(土)午後6時に石川県へのDPAT派遣を決定した。
- 先遣隊は2クルールの派遣を予定しているが、宮城県における先遣隊の登録者は13名であり、引き続き、先遣隊を派遣することが困難な状況である。今後のDPAT事務局からの要請に応じ、都道府県DPAT(後続隊)の派遣について検討することとし、あらためて、関係機関に協力要請する。

#### (2) 派遣内容等

名称	災害派遣精神医療チーム(DPAT)
活動内容	被災地のニーズに応じた以下の活動 ①精神科医療の提供、②被災地における精神保健医療のマネジメント、 ③精神的問題を抱える一般住民への対応、④支援者の支援
チーム編成	精神科医師、看護師、事務職員等(4名程度で編成)
派遣期間	令和6年1月7日(日)から当分の間 (移動日も含め、原則7日間を1クールとし、順次派遣チームを入れ替え)

## (3) 先遣隊(第1クール)の派遣内容

派遣期間	令和6年1月7日(日)から同年1月13日(土) <sup>*</sup> まで ※ 7日に宮城県を出発し、13日に石川県を出発
メンバー	宮城県立精神医療センター:精神科医師1名、看護師2名、事務1名
移動・宿泊	レンタカー(トヨタハイエース)、アパホテル高岡丸の内(富山県高岡市)
出発式	日時:令和6年1月7日(日)午後1時 場所:宮城県立精神医療センター(名取市手倉田字山無番地)

## (4) 先遣隊(第2クール)の派遣内容

派遣期間	令和6年1月17日(水)から同年1月23日(火) <sup>*</sup> まで ※ 17日に宮城県を出発し、23日に石川県を出発
メンバー	宮城県立精神医療センター:精神科医師2名、看護師1名、事務1名
移動・宿泊	レンタカー(トヨタハイエース)、富山県高岡市内

## 3 DPAT 統括者一覧 (順不同)

氏名	所属・役職
富田 博秋	東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野教授
國井 泰人	東北大学災害科学国際研究所災害医学研究部門災害精神医学分野准教授
佐藤 博俊	仙台市立病院精神科部長
林 みづ穂	仙台市精神保健福祉総合センター所長
角藤 芳久	宮城県立精神医療センター院長
小原 聡子	宮城県精神保健福祉センター所長